

廃水停止は困る。

市民の生活に響く

各種団体が知事に陳情

「新日本佐世の隼水即時ストップは水俣市民全体の死活問題だ」と水俣市の中村市長・瀬上蔵長・金子商工会議所会頭、江口水俣防汚労働会長ら「千八団体の代表約五十人は、漁民を除いた」才一水俣」の形で七日相本県庁に守本知事を訪ねて陳情、隼水の即時停止を要望している不知火海水汚染防止対策委員会と対立する利害関係にあることを示した。

県議会水俣病対策特別委員会では、県漁連などの要望もあり、廃水即時停止の意見が強く、五日の特別委では停止のための条例制定

の話まで出た。しかし水俣市が新日鐵水俣工場に大きく依存しているので、廃水即時停止は工場の一時間閉鎖と同じだ」と知事に強制方を訴えたもの。

陳情団の話では市税総額一億八千、ことを考え、問題が合理的にかた

余乃山の半分を土場に依存し、また本郷が一時的にしのぐ操業を中止すれば、五万市民は向らかの形でその影響を受けやう。

これに対し寺本知事は「本郷も漁業も県内の産業である。この立場で問題解決を望みたい。私の見た限りで本郷の廃水処理はいまはいいが、過去に相シズサンなどもあった。市民のみならずこのことを考え、問題が合理的にかた



廃水停止問題で知事に陳情する水俣市各種団体（県庁会議室にて）

つよく努力してほしい」と答へた。

陣情団はこのあと眞潮連に対し、二日の漁民の暴力行為を抗議するとともに、市民の立場を伝えた。